

代表事例集

取組項目	コミュニティタイムライン作成支援講習会
主な内容	行政の防災担当職員や地域住民を対象に、コミュニティタイムライン作成に関するノウハウ習得を目的とした講習会を開催。大阪管区気象台や近畿地方整備局から防災気象情報や水災害に関する説明を実施した後、各警戒レベル毎にとるべき行動を各自で検討し、実際のコミュニティタイムラインの作成方法を実習により学んでいただいた。

■地域の災害対応力の向上に向けて

※講習会でカバー

①動機づけ

・**災害リスク**や実態を知り、対応の重要性を認識する。

②理解

・**タイムライン作成**をとおり、必要な対応(**共助**)を理解する。

③習熟・知識化

・地区での話し合いや訓練を通して、習熟と知識化を目指す。

④継承

・地区で知識スキルと組織対応力を蓄積する。
⇒①へ

■講習会の概要

●第一部 防災に必要な知識を得る

○**気象情報**に関する説明
・大阪管区気象台より



○**水災害**に関する説明

・近畿地方整備局水災害予報センターより



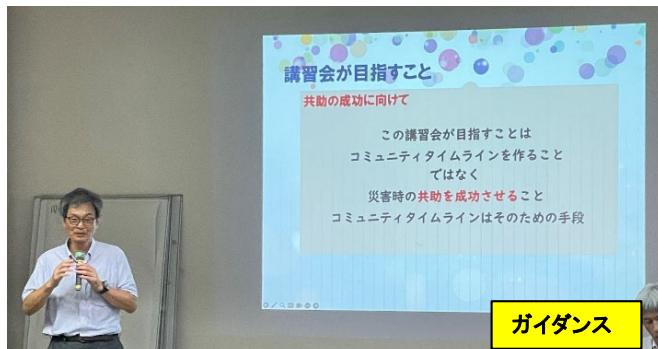
●第二部 災害の実相に触れる

○**災害派遣(能登)経験者**のお話
・大阪府岸和田土木事務所より



●第三部 演習 コミュニティタイムラインを作る

・各警戒レベルごとに行うべき行動をグループで確認・ポストイットに書き出し、タイムラインに記載すべき内容を、全員で共有した上で、講習会の中でタイムラインを一事例作成した。



ガイダンス



検討内容の発表・タイムライン作成



グループワーク状況

「水害に備えて」というテーマで防災教育や防災知識の普及に関する出前講座を実施。

講座内容は大和川大水害を事例に写真を使って水害の概要を紹介し、水害に対する県の取組も伝えた。また、早期避難のために災害情報や避難グッズの準備の重要性を説明した。最後に自助・共助・公助を紹介し、災害への備えについて大切な心構えを伝えた。

また、水害リスクの情報収集の方法として、水害リスクマップや災害リスク情報システム、河川情報システムを紹介した。

令和7年度実績

○令和7年 11月9日

参加団体：橿原市新賀町防災会 参加人数50名

○令和7年 11月27日

参加団体：要約筆記サークル連絡会 参加人数23名

○令和7年 11月30日

参加団体：手話通訳問題研究会 参加人数8名

○令和7年 12月2日

参加団体：生駒市立俵口小学校 参加人数82名

○橿原市新賀町防災会の様子



○生駒市立俵口小学校の様子





松原市の取組 防災教育・啓発活動等の推進

イベント名	まつばら防災フェスタ
概要	1. 日 時：令和7年8月3日(日) 10:00～12:00 2. 場 所：セブンパーク天美 3. 来場者：2,000人 4. 参加団体：30団体
主な内容	・自宅が浸水エリアに含まれていないかの確認 ・避難するタイミングについて警戒レベルの周知啓発 ・避難場所の確認

○イベントの様子



【浸水エリアマップ】



【警戒レベル表】

水害の防災情報の伝え方が変わりました。逃げ遅れゼロへ! 防災情報はいろいろあるけど、いつ避難すればいいの? **サイレンが鳴ったら全員避難!!**

市が避難情報を発令する時に放送するサイレン音、音声のサンプルを右記QRコードからホームページで確認できます。

警戒レベル	避難情報	住民が取るべき行動	放送内容の例文
レベル5	緊急安全確保 (市が発令)	【災害発生】命を守るための最善の行動! すでに災害が発生している状況です。	警戒レベル4 水防サイレン約1分 約5秒休止
レベル4	避難指示 (市が発令)	【全避難】危険が迫っています。すぐに浸水のおそれがない避難先へ避難しましょう。	水防サイレン約1分
レベル3	高齢者等避難開始 (市が発令)	【高齢者等避難】避難に時間がかかる高齢の方、乳幼児などとその支援者、その他の方は、避難の準備をしましょう。	洪水浸水想定区域内におられる方は、 すぐに避難してください

早めの水平避難を! ※避難経路は100%を守るものではありません。大雨や台風は、地盤に弱り、いつ、どこで発生するのかわからない災害です。命を守るため、水平避難による早期避難を行うことが大切です。

放送を聞き逃したら...
テレホンサービス (24時間対応)

050-5533-8179

※緊急情報が放送されてから24時間間引き取ることができます。

○参加者の感想

- ・自分の家が浸水エリア内にあることを初めて知りました。
- ・避難のタイミングについて再確認することができてよかった。
- ・サイレン鳴ったら対象エリア内の全員が避難することを知らなかったので勉強になりました。

■被害の軽減・早期復旧・復興のための対策

▶ 要配慮者利用施設における避難計画の策定支援と避難の実効性確保

要配慮利用施設における避難計画の策定支援

藤井寺市

○概要○

避難確保計画に基づく訓練の実施促進を目的として、大和川河川事務所、気象台、大阪府と連携して浸水想定区域内の要配慮者利用施設を対象に講習会を実施した。当日は、22人の要配慮者利用施設の施設管理者や職員等が参加し、ワールドカフェ方式による施設タイムラインに関する意見交換では、災害時の施設の対応について盛んに意見が交わされた。



▲ 意見交換の様子

1班 の施設タイムライン検討シート					
担当者名	統括指揮者	情報連絡班	避難誘導班	装備品等準備班	
警戒レベル1 ■早期注意情報 (警報線の可能性) 休業および 職員召集の 判断	職員の出動 状況を掌握 しておく 施設内の設備 チームのリー ダーと打ち合 わせ	利用者家族 へ連絡 職員への情 報伝達 建物内外の 確認、要請	避難先、 避難経路の 確認 避難者の人 数等の確認 誰がどの利用 者をどこに誘 導するか役割 分担	点検 在庫のチェ ック 食料 資材 必要物品の 準備 避難装備の 設置 ハシコ等	衣類等、く つや手袋の 配布 移動方法の 確認
警戒レベル2 ■大雨注意報 ■洪水注意報 ■高潮注意報 ■氾濫注意報 ■ききくろ(危険 度分布)「注意」	情報の収集 施設職員 召集 活動の指示 客担当から 報告待ち	水位情報の 確認 統括指揮者 への情報伝 達 避難経路に 情報提供、 及び情報収 集 避難支援、 協力者に協 力要請の通 知 市に状況を 確認	避難開始 避難者の人 数確認・点 呼 避難完了の 点呼、及び 確認 体調確認 避難、混乱 しないよう 指導	2Fへ1Fの 物を上げて いく 食糧の管理 、配布 飲料の管理 、配布 おむつ等の 管理、配布	
警戒レベル3 ■高齢者等避難 ■洪水警報 ■氾濫警戒情報 ■大雨警報(土砂 災害) ■高潮警報 ■ききくろ(危険 度分布)「警戒」	活動状況 確認	避難情報 指令を統括 指揮者に 報告 避難状況に 応じ、応 答者を追加 要請	避難完了 市に状況 報告 利用者家族 へ連絡 地域に状況 を確認	緊急安全確 保判断	
警戒レベル4 ■避難指示 ■氾濫危険情報 ■高潮特別警報 ■土砂災害警戒 情報 ■高潮警報 ■ききくろ(危険 度分布)「危険」					
警戒レベル5 ■緊急安全確保 ■大雨特別警報 ■氾濫発生情報 ■ききくろ(災害 切迫)					
【参考資料】要配慮者利用施設における避難確保計画の作成・活用の手引き（令和4年3月）タイムラインの様式例に追加					

▲ 意見交換で作成されたシートの一例

○効果○

講習終了後、講習に参加した施設のうち12施設より訓練実施報告書及び施設タイムラインの提出があった。（11月末時点）

■被害の軽減・早期復旧・復興のための対策

▶ハザードマップの周知及び住民の水害リスクに対する理解促進の取組

まるごとまちごとハザードマップの整備・更新・周知

藤井寺市

○概要○

本市では、平成23年度にモデル事業として、国土交通省との共同により、大和川左岸側の船橋町地区に2か所、大和川右岸側の川北地区に2か所、合計4か所に「まるごとまちごとハザードマップ」のパネルを設置した。

その後暫くは進展が無かったが、大和川河川事務所と大阪府の協力を得て、本市にある45の地区自治会のうち、一定以上の浸水が想定され、パネルの設置を希望する19地区（38か所）で、令和3年7月以降、順次パネルが設置された。

また、第2弾の取り組みとして、令和3年12月、浸水想定区域内にある市の広報板80か所に、浸水深を記したパネルを設置した。



▲川北地区の標識
(藤井寺支援学校前)

第1弾

▼令和3年7月14日、@津堂地区会館

地区会館で国・府の関係者、市長等の立ち会いのもと、地区役員の皆さんにより「まるごとまちごとハザードマップ」の標識が設置された。



第2弾

▼令和3年12月3日、@国府八幡神社前

市長、国府地区長、自主防災会ネットワーク座長の3者で設置確認。



○効果○

大和川や石川が氾濫した場合に想定される最大の浸水深を記した標識が設置されることで、地域住民の水防災への意識を高め、早期の避難行動を促し、被害軽減を図ることが期待される。

■被害の軽減・早期復旧・復興のための対策

▶ハザードマップの周知及び住民の水害リスクに対する理解促進の取組

住民一人一人の退避計画（マイ・タイムライン）の推進 防災教育・啓発活動等の推進

藤井寺市

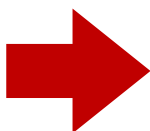
○概要○

本市では、令和2年度より市LINE公式アカウントによる災害情報の発信に取り組んでおりますが、令和4年8月26日に市LINE公式アカウントに避難訓練機能及びマイ・タイムライン作成機能を追加しました。



▲藤井寺市
LINE公式アカウント

防災メニューへ
切り替え



該当するボタンをタップすると
各機能が起動します。

①避難訓練機能

LINEのトーク画面上で避難のタイミングや避難先など避難に必要な情報を大雨の予報が出たときから避難完了までの時系列に沿って確認する訓練です。



▲訓練画面より一部抜粋

②マイ・タイムライン作成機能

LINEのトーク画面上で簡単なアンケートに回答することで、風水害が迫ってきたときの自身の行動をまとめたチェックリスト（マイ・タイムライン）を作成する機能です。作成したマイ・タイムラインは、LINE上でいつでも確認・修正することができます。



マイ・タイムラインの作成例▶

○効果○

時間や場所を選ばず実施できる避難訓練で従来より多くの方に防災訓練に参加いただくこと、マイ・タイムラインをいつでも手元で確認できることで防災意識の高揚や円滑な避難確保につながる事が期待される。

川西町の取組状況

(マイ・タイムライン講習会)

取組機関名	川西町、大和川河川事務所、河川情報センター
具体的取組	マイ・タイムライン講習会
主な内容	・講演：最近の気象災害と情報の活用について(気象予報士 澤麻美氏) ・「逃げキッド」を用いたマイ・タイムライン作成講習(気象予報士 澤麻美氏)

○日時・参加者等

- ・日 時：2025年11月29日(土)
- ・場 所：川西町中央公民館 けやきホール
- ・参加者：40名(川西町自主防災会)
- ・概 要：川西町は、大和川河川事務所との共催により、町内に4本の河川が流れる川西町の自主防災組織の方々を対象に、マイ・タイムライン講習会を開催しました。講師には流域治水アンバサダーの澤麻美氏(気象予報士)をお招きし、マイ・タイムライン作成方法の説明や最近の気象災害や情報の活用方法を講演していただきました。

○講習会の状況



○講習会資料



取り組み・主対象		第1四半期			第2四半期			第3四半期			第4四半期		
①知る機会を増やす	◎水難事故の啓蒙活動 地域 個人 企業・団体												
	◎連携活動 地域 個人												
②自分事と捉えることを促す	◎リスク情報等の提供 地域 個人 企業・団体												
	◎教育活動 地域 個人												
	◎訓練活動 地域 個人												
③行動を誘発する	◎計画策定 地域 個人 企業・団体												
	◎水災害対策の支援 個人												
	◎水防活動の支援 地域 個人 企業・団体												

淀川水系流域治水協議会（環境省）

流域にも視野を広げる（自分のためにも、みんなのためにも）

教育活動

- 中学校におけるゲリラ豪雨情報の活用実証授業のビデオ教材化
- ・初版ビデオ教材の限定公開中
<https://youtu.be/e1aknE1evGQ>
- ・初版ビデオ教材を中学校に配布
対象：南宇治中学校、東宇治中学校



ワークショップの実施

- 人と防災未来センターとの連携
- 市民（小学生）向けのワークショップ：「ゲリラ豪雨マスターになろう！」を実施（7/19、7/20）
- ゲームをしながら、ゲリラ豪雨対策の重要性を学ぶ



①知る機会を増やす

水災害のリスクや、流域治水について知る機会を増やしていく。

②自分事と捉えることを促す

水災害のリスクが自分事と捉えられ、流域に視野が広がるきっかけを提供し、行動に向かう状況を創出する。

③行動を誘発する

水災害対策や、流域治水に関して実際に取り組みが行われるよう、個人、企業・団体の行動を誘発していく。

流域治水に取り組む主体が増える

土砂災害対策

地すべり対策、砂防事業、森林の整備・保全等

- 林野庁所管の国有林（当該地域に約1,000ヘクタール）を多様で健全な森林として未来に引き継いでいくこと等を目指し、植栽、下刈、間伐といった森林の整備を行います。
- 水源の涵養（かんよう）、山地災害の防止等のために指定された保安林の機能向上に向けた森林整備や、荒廃地復旧のための治山施設の設置を行います。

大和川流域



〔森林整備事業〕

間伐とは、森林の混み具合に応じて、樹木の一部を伐採し、残った木の成長を促す作業です。間伐を行うと、光が地表に届くようになり、下層植生の発達が促進され、森林の持つ水源涵養機能、土砂災害防止機能、生物多様性保全機能が増進します。



保育間伐・木柵工を実施した森林

〔治山事業〕

大雨等による山崩れ（崩壊地）は、下流で起きる洪水の原因ともなります。崩壊地では、斜面には山腹工事、溪流（谷川等）には溪間工事という土木的な工事を行い、安定した場所には木を植え、山を守る森林に戻していきます。



溪間工事の例